

「津軽鉄道でむすぶまちづくり」

担当教員名 西城戸 誠 長峰 登記夫

コース概要

日程	2018年2月17日～20日
場所	青森県五所川原市、中泊町
参加人数	16名

コースのねらい

赤字路線のローカル鉄道の中でも人気の津軽鉄道とそれをサポートする沿線の地域活動や、コミュニティカフェの実践を学び、着地型観光、地域活性化のあり方を学びます。

内容

コースの狙い：本フィールドスタディは、赤字路線のローカル鉄道の中でも人気の津軽鉄道とそれをサポートする沿線の地域活動を見学しながら、奥津軽地方の「着地型観光」について考えていきます。企業組合・でるそーれの皆さんが運営しているコミュニティカフェの実践を始め、津軽鉄道沿線の地域づくり、まちづくりの実践を学ぶとともに、このフィールドスタディの実践によって、地域のまちづくりの実践をつなぎ合わせるという意味も込められています。本フィールドスタディは、訪問先から「学ぶ」という側面と、私たち自身が「地域にかかわる」ということがどういう意味を持つのかという点を再帰的に捉えることを企図しています。

コースの内容：1日目：五所川原駅近くのコミュニティカフェ「でる・そーれ」に集合し、五所川原の街歩きをした後、五所川原市の夏を彩る立佞武多の展示がある、「立佞武多の館」を訪問しました。その後、「地域の伝統文化と産業の再生」という講義の中で、立佞武多の館の菊地館長、津軽金山焼の中鉢さん、立佞武多師の福士さんのお話を伺いました。その後の宿泊はグループに分かれて、農家民泊をしました。地域の方といろいろな話をして、世代を超えた交流を行いました。

2日目：農家民泊先から集合し、昨晚の出来事のふりかえりを行いました。民泊を受け入れていただいた方の一人である、斉藤久子さんから、ご自身が民泊をするようになった背景についてお話を伺いました。その後、津軽鉄道のストーブ列車に乗り、津軽五所川原駅から金木駅まで移動し、太宰治の生家である斜陽館や、新座敷、ぽっぽ屋を訪問し、太宰治を巡った観光の「質」の違いについて学びました。その後、津軽鉄道の社内で、津軽半島観光アテンダント、津軽鉄道株式会社の関係者からの津軽鉄道に関わるさまざまな活動のレクチャーを受けました。



ねぶたの紙貼り体験



農家民泊先の方と一緒に



新座敷にて太宰治の話を伺う



コミュニティカフェでる・そーれの「うちごはん」

3日目：つがる市フィルムコミッションの川嶋大史さんに、地元を舞台とした映画づくりについて話を伺いました。地元で撮影されたショートムービー（「ふりむくな」AKB48 チーム8 青森県代表・横山結衣主演）でも登場した神武食堂で昼食をとった後、稲垣薫の会の方の指導のもと、わら細工の体験を行いました。宿泊先の中泊町ふれあいセンターに移動し、これまでのフィールドスタディの内容の振り返りを行いました。夕食は、中泊町のグリーンツーリズム団体「かけはし」の方をお願いをし、学生たちも少しだけ夕食づくりを手伝いました。

4日目：「かけはし」の方が作ってくれた朝食を頂いた後、中泊町の農家（イネ子の畑）に伺い、冬のアスパラガスの収穫体験と佐藤イネ子さんの地域における活動の話伺いました。その後、公開講座 法政大学生による奥津軽フィールドスタディ現地発表会テーマ「大学生が魅力を感じる農山漁村体験と観光を組み合わせた旅行プラン」で、参加学生が発表を行いました。なお、NHK 青森の取材を受け、地元ニュースで取り上げられました。「でる・そーれ」で昼食をとり、五所川原を後にしました。

事後学習会では、フィールドスタディ全体の振り返りを行い、今後の人間環境学部での学びとの関連について議論をしました。



稲垣薫の会による、藁細工体験



津軽鉄道の中での講義



冬のアスパラガス収穫（イネ子の畑）

学習を終えて

私は、奥津軽フィールドスタディに参加して、素敵な人々に出会うことができました。フィールドスタディに参加するまで、観光とは観光客が楽しむことだと考えていました。しかし、フィールドスタディで奥津軽の方の暖かさに触れたことで、観光は地元の方も楽しむものだと感じました。民泊や、でるそーれの方などの奥津軽で出会った方は、全員笑顔でした。また、観光に携わっている多くの人から、地元へ貢献したいから協力しているという話を伺いました。そのような方達と四日間過ごしていくうちに、私は、奥津軽が心の温まる居心地のいい場所であると感じました。今まで、色々な観光地に行ったことはありますが、人の暖かさに触れ、また会いたい人ができた観光地は初めてでした。また、奥津軽フィールドスタディに参加し、奥津軽について更に学びたいと思いました。（1年・反田彩）

奥津軽 FS での4日間は普段経験できないような貴重な時間を過ごしました。2月に吹雪く奥津軽の寒さを肌で感じながら、まさに着地型観光としてのグリーンツーリズムを体験しました。その一つで、一晚を過ごした農家民泊では、郷土料理を食し、五所川原地域の歴史や立佞武多のお話、グループによっては雪かきのお手伝いをする事もありました。普段過ごす事のできない貴重な体験や地域の方々との会話を通して、五所川原の地域を身近に感じる事ができました。さらに、津軽鉄道のストーブ列車に実際に乗車し、着地型観光を体験しました。津軽鉄道サポーターズクラブという組織が津鉄を中心に、季節ごとの周辺イベントを多く開催し、地域に根ざした活動を行なっていることが話の中で分かりました。最後にこの体験を通して、グループごとに津軽鉄道を中心とした着地型観光の『友達に薦めたくなる旅行プラン』を行程表とスケジュールを用いて発表しました。私たちの班は、家族で行けるような旅行プランをテーマに、奥津軽地方の北側から津軽鉄道を利用して南下していくプランを組みました。プラン内容として、FS内で巡った土地や実際に体験したプログラムなどを元に各々の班が、テーマに沿って発表しました。実際に体験してなければ分からない感動と貴重な経験をすることができる充実したプログラムでした。（2年・和田泰輔）